

問 61 から問 90 までは「遷宮」および「神宮」
「第 62 回神宮式年遷宮」に関する問題です。

「杵築祭」に関する以下の文章を読んで問 61 から問 64 までの設問に答えてください。

内宮の遷御の時まであと 4 日、平成 25 年 9 月 28 日に、内宮の杵築祭は執り行われた。

杵築祭は新殿の竣功を祝して、その御柱の根元をつき固める祭儀だ。室寿（むろほぎ）の古俗として由緒も古く、禰宜・内人（神職）たちが、大宮地（おおみやどころ）を築きならし詠い舞うのである。

午前 9 時、神楽殿隣の【ア】には、既に檜葉（ひば）机と素木机が並べられていた。それぞれに鯛や蛸（たこ）など古から決められた見事な調理品が並べられている。これからまず大宮司以下の神職と技術総監以下の神宮式年造営庁職員が古式饗膳を行い、無事の竣功を祝うのだ。この饗膳の儀は神宮式年遷宮諸祭の折々の節目で行われてきた。かつての饗膳の儀は、都の朝廷から派遣された【イ】を神宮がもてなしたものだ。式年遷宮の諸準備を進める【イ】は、明治以降は内務省に造神宮使庁が設置され、これを担った。戦後は神宮内に神宮式年造営庁が設置され、神宮職員がその任にあたっている。饗膳の儀はその本義を今に伝えるものだ。

問 61

下線部の「詠い舞う」に関して、実際には何が舞われるのでしょうか。

1. 人長舞
2. 五節舞
3. 倭舞
4. 浦安舞

問 62

【ア】に入る言葉として正しいものを選んでください。

1. 斎館
2. 五丈殿
3. 九丈殿
4. 忌火屋殿

問 63

下線部の「饗膳の儀」に関して行われる古からの正式な酒宴の作法とは何でしょうか。

1. 三々九度
2. 三献勸杯（けんぱい）
3. 式三献
4. 椀飯（おうばん）

問 64

【イ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

1. 遷宮使 2. 役夫工米使
3. 山田使 4. 造宮使

❖ 解 説 ❖

問 61 の五節舞と倭舞は、大嘗祭などで舞われるもので、古代からの歴史をもつものです。浦安舞は昭和天皇の御製を歌詞として、昭和 15 年（1940）の皇紀二千六百年祝典の際に作られた神楽舞です。

→『伊勢神宮と、遷宮の「かたち」』172 ページ「杵築祭（こつきさい）——平成二十五年九月」

問 61 正解 3 問 62 正解 2

問 63 正解 2 問 64 正解 4

問 65

以下の文章の空欄【 】に入る言葉として最もふさわしいものを選んでください。

神宮式年遷宮諸祭・諸行事のうち、御装束神宝読合より初めて祭主が祭儀に奉仕されることになる。また、この祭儀から祭主はじめ神職の装束も替わる。いずれも古式にのっとった端麗な装束だ。それぞれ奉仕者は新調の遷御奉仕服に威儀を正して居並ぶことになる。

午前 9 時 50 分、第三鼓が鳴り響いた。すぐに黒袍を身につけた【 】を先頭に造宮庁職員の列が斎館を出て参進していく。【 】とはこの祭儀のために天皇陛下が差遣された使いのことである。

1. 装束使 2. 神宝使
3. 造宮使 4. 調整使

→『伊勢神宮と、遷宮の「かたち」』177 ページ「御装束神宝読合（おんしょうぞくしんぼうとくごう）——平成二十五年十月」

正解 2

以下は平成 25 年 10 月 2 日に執り行われた内宮の遷御の様様です。文章を読んで問 66 から問 73 までの設問に答えてください。

午後 6 時、第三鼓が響き渡る。斎館から勅使とその一行、祭主以下、百数十人の参進を告げる太鼓の合図だ。勅使と勅使随員は束帯姿で【ア】をつけ、随員 3 名は衣冠姿である。勅使を務めるのは掌典長で、掌典長が勅使を務めるのは神宮式年遷宮に限ることだ。

勅使一行と祭主以下は、まず、第二鳥居外で向かい合って並び、一揖後、勅使一行を修禊。勅使以下祭員は、参道途中にある玉串行事所へと向かい参道

両側にずらりと列立した。ここで禰宜までの祭員は、大庭（おおば）と呼ばれる祭場に設けられた玉串案のところで【イ】を受け取る。ここでいう【イ】とは、榊に木綿のついた玉串の美称でもあるが、『延喜式』に所収の「伊勢大神宮 神嘗祭」祝詞の中に「【イ】に隠り侍（はべ）りて」とあり、そこからこの名称で呼ばれているものだ。

6時半、祭員一行が御正宮内へと入っていった。中で石を踏む音が聞こえる。【ウ】での祭儀が始まって、あたりは再び、静寂となった。次第によると、諸員が【ウ】の版（所定の座す場所）に著くと、まず、【イ】が内玉垣御門下に納められ、次に御正殿御扉の御鑰が大宮司に進められ、祭員一同が内院の版に著く。内院とは御正殿のある御垣内の一番奥の最も清浄な聖域のことである。

勅使が御正殿の階下に進んで「新宮の御造営が成りましたにより、御遷りを請い奉る」旨の御祭文を奏上。大宮司・少宮司によって御扉が開かれた。

午後7時55分、庭燎も消された静かなる闇の中で、所役の宮掌が瑞垣御門下の西方で東面し、鶏鳴を三声（さんせい）、大きくゆっくり唱える。

「カケコー」「カケコー」「カケコー」。

これは天照大御神が天石屋戸にお隠れになったとき、八百万の神たちが【エ】を集めた故事に倣うものだ。続いて、勅使が御階（ぎょかい）の前に進み、出御を申し上げ、いよいよその時となった。

この御神体の出御と同刻の8時に、皇居では天皇陛下が「遙拝の儀」を行われた。第52代嵯峨

天皇のときに制定され、天皇しか身に着けることができない【オ】をお召しになった天皇陛下は【カ】を奉持した侍従を従えて出御。【キ】前庭（南庭）に特別に設けられた御座に進まれ、【ク】という最も丁重な作法で、遷御の儀を遙拝されたという。【ク】とは、【ケ】から始まり、今に伝わる神宮の遙拝作法だ。天皇陛下は、毎年10月17日のお祭りのとき、【キ】の浜床に設けられた御座で神宮を遙拝されるが、遷宮の際は特に、庭上に春夏秋冬の景色が描かれた屏風をめぐるせて御座を設けられ、そこで遙拝されるという。

問 66

【ア】に入る言葉として正しいものを選んでください。

- | | |
|--------|--------|
| 1. 木綿鬘 | 2. 五色蔓 |
| 3. 紙幣蔓 | 4. 榊蔓 |

問 67

【イ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

- | | |
|--------|--------|
| 1. 長玉串 | 2. 美玉串 |
| 3. 斎玉串 | 4. 太玉串 |

問 68

【ウ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

- 1. 中重 2. 九重
- 3. 内場 4. 九場

問 69

【エ】に入る言葉として最もふさわしいものを選んでください。

- 1. 常世の長鳴鳥 2. 天の長鳴鳥
- 3. 浄閻の長鳴鳥 4. 幽世の長鳴鳥

問 70

【オ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

- 1. 御祭服 2. 黄櫨染御袍
- 3. 帛御袍 4. 御直衣

問 71

【カ】に入る言葉として正しいものを選んでください。

- 1. 御剣 2. 宝剣
- 3. 剣鏡 4. 剣璽

問 72

【キ】に入る言葉として最もふさわしいものを選んでください。

- 1. 賢所 2. 神殿
- 3. 皇霊殿 4. 神嘉殿

問 73

【ク】【ケ】に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを選んでください。

- 1. ク、庭上下御 ケ、第 60 代醍醐天皇
- 2. ク、庭上下御 ケ、第 66 代一条天皇
- 3. ク、浜上下御 ケ、第 66 代一条天皇
- 4. ク、浜上下御 ケ、第 60 代醍醐天皇

➡ 『伊勢神宮と、遷宮の「かたち」』184 ページ「遷御（せんぎょ）——平成二十五年十月」

- 問 66 正解 1 問 67 正解 4
 問 68 正解 1 問 69 正解 1
 問 70 正解 2 問 71 正解 4
 問 72 正解 4 問 73 正解 1

問 74

神宮式年遷宮では遷御の後に5つの祭儀が行われますが、その行われる順番として正しいものを選んでください。

1. 大御饌 → 奉幣 → 古物渡 → 御神楽御饌 → 御神楽
2. 大御饌 → 古物渡 → 奉幣 → 御神楽御饌 → 御神楽
3. 御神楽御饌 → 御神楽 → 古物渡 → 大御饌 → 奉幣
4. 古物渡 → 御神楽御饌 → 御神楽 → 大御饌 → 奉幣

→ 『伊勢神宮と、遷宮の「かたち」』192ページ「大御饌（おおみけ）——平成二十五年十月」、193ページ「奉幣（ほうへい）——平成二十五年十月」、195ページ「古物渡（こもつわたし）——平成二十五年十月」、196ページ「御神楽御饌（みかぐらみけ）——平成二十五年十月」、197ページ「御神楽（みかぐら）——平成二十五年十月」、202ページ「第六十二回神宮式年遷宮 主要諸祭行事一覧」

正解 1

問 75

以下の文章の空欄【 】に入る言葉として正しいものを選んでください。

平成27年3月に風宮の遷宮が執り行われ、この時点で第62回神宮式年遷宮の諸祭儀は終了したが、【 】まですべての遷宮が終わったのは令和5年のことだった。

1. その他の別宮 2. 摂社
3. 摂社・末社 4. 摂社・末社・所管社

→ 『伊勢神宮と遷宮の「かたち」』199ページ「別宮以下の遷宮」

正解 4

出雲大社で平成25年5月10日に行われた本殿遷座祭に関して書かれた以下の文書を読んで問76と問77の設問に答えてください。

遷座祭を翌日に控えた9日の午前11時からには御本殿で【ア】が執り行われた。これは宮殿に災いのないことを祈る儀式であり、大嘗祭や天皇親祭の毎年の新嘗祭・【イ】の前後、皇居の遷移の際など古代より宮中祭祀の一つとして行われてきた。【イ】とは、中世まで行われていた宮中祭祀の一つで、【ウ】の夜に神嘉殿に天照大御神を迎えてとも